

団地／それぞれの住まい歴調査 vol.4

■日時：2013年8月7日（水）15:00~17:00

■場所：男山団地中央センター1階 喫茶 peepul

■参加者：

◇居住者：

・Aさん

◇KSDP メンバー

・星田：H

・安原：Y

・芦田：A

Aさん：えー…いれるんですか？（ICレコーダーを見て）

A：まー、一応ですよ。

H：フランクな感じで。

Y：あんまり緊張なせずに。あの一、ありがとうございます。

Aさん：いえいえAと言います。

Y：よろしくお願いします。

H：Hと申します。

Y：まあ今までね、どういう風に暮らしてこられたか、どうゆう人生を辿ってこられたか。

Aさん：人生!?

Y：まあそんな大げさなことでは。ちょっと大げさでしたね。まあそういうことを気軽に語っていただくということ。

Aさん：ということはあれなの？何十年も古くから住んでる人だけが聞くてことなの？

A：そんなことではないです。

Aさん：この団地に長いこと住んでるから、どんな人生ですって。

A：あー、違います違います。

Aさん：自分の生い立ちのことですか。

A：そうですそうです。

Aさん：なんで必要なんですか？すいません。今回のこのあれは団地に対して何の調査、なんなんですかね。聞いてませんねん私。

Y：ちょっとそれを説明しますとね。

Aさん：そうですね。あの、何もなしにただ、ふふ、ただ行ってもらえないかなって。だから基本的にはあの、

A：Kさんの、紹介で。

Aさん：そう、それとUさんと。信頼関係がある人たちなので。気楽にはいと承諾しましたが、ほんで、自分が長いこと住んでるけど今後住みやすくするためにとか、何なのか。

Y：そういう方向の話を中心に話していただいて結構なんですけど、よくあるアンケートしたりですね。色んなこととして研究したり調査したりしてますけど。そういうのって一人一人の方の姿があんまりちゃんと見えないわけです。

Aさん：ああはい。

Y：なんとなくね、数として扱うことはありますけどね。

Aさん：そうですね。

H：研究の母体自体の話は聞いてますか。

Aさん：もう全然。

H：そこから話せな。

Aさん：そうですよ。

H：何のためにとか。

Aさん：そうですよ。何のためにやるんかとか。何にもなくて、でも、アンケートとかよく入ってますやん。だから自分の中ではまったくというわけではないんですけど、何らかの方法で、今後のことを、私たちはもう年いきますから、今後その団地のために研究をされているという理解でどうですか。

A：じゃあ僕が最初説明させていただきます。

Aさん：そうですね。あの紙なんか入ってますやん、アンケートの紙。

A：あれは関西大学が団地再編というプロジェクトの一環で、アンケートさせていただいて。その数ある、研究の対象が、アンケート調査で会ったり、実際に模型とか作って、どうゆう風にしたらよくなっていくとか。

Aさん：頭がいいことはないけど、ざーっとですけど、それは感じます。今後の若い人たちのことを考えて、今色々やられてるわけでしょ。

A：そうですね。

Aさん：それもわかって、それもあるからきたんですよ。今後のこともたぶん2人（UさんKさん）よりは一歩長い、恥ずかしいけど。

A：ああ、

Aさん：2人は途中で私はほんま、ここで出産してますから、お二人は出産されてないから。同級生ですけど、つれて4年生くらいから。

A：その色んな研究のある中の一つで、そのインタビュー調査っていうのをやってまして、それは、この団地をこう良くしたら、良くなるんじゃないかとかいう会話をするんじゃないくて、一人一人に、どうゆう人生をたどってきたのか、その団地の背景の中にその一人一人の人生があるわけじゃないですか。

Aさん：はいはい。それって必要なんですかやっぱ。

A：そうです。そういうところからやっぱなんか、

Aさん：糸口が、

A：糸口を見つけていけないかなということ。

Aさん：そうですね、今さら建物がどうかはね、わかりました。

H：そもそも、この関西大学の研究は、男山団地を研究しようとする研究ではなくて。

Aさん：ああではないの。

H：ではないんですよ。それはあのむしろ日本の大きな団地が、一般的にこれからどうしたらええかということ、一つはそれなんですよ。

Aさん：そういうことやったら私向いてますかね。

H：いや、それを一緒に考えてくださいというヒアリングではないんです。

Aさん：ああはい。どういう人生。

Y：まああまりたいそうに考えんで、まあ、要するに、こんな人あんな人、色んな人がここには住んでますよと、で、ここで子育てしたりですね、あるいは年をとられてここで住んでいらっしゃるとか、そういう色々似たような形ですけど、実際には一人一人の方はみんな違った人生を歩んでいる。

Aさん：そうですね。

H：そのところをあんまり捉まえないで、アンケートのような調査をしますとね、やっぱり数字で表れてくるわけです。ある類型化したね、パターンが見えてくることは見えてくるんですけど。だけどその裏には、色んな形の住まい方というか、家族の過ごし方と、そんなものがいっぱいあるんです。そんなことを、お話をうかがう中で捉まえていけたらね、もっとどうしたらいいか、特に今問題にしているのは、この古くなった、このすごくたくさんの方がまとまっている団地というのがあるでしょ、で人口減ってるでしょ、年取ってるでしょ。でこれからどうしたらええねんということを考えてときにただ単にアンケート取るだけではね、こんな人がいっぱいいるよと捉まえてね、それをもとにもの考えていったらどうやというのがこの今回の、我々が取り組んでいるテーマなんです。

Aさん：わかりました。

Y：そのことをお話しただけで、何も構えないでください。でもうさっきちょっとお話に出ましたけどね、ここで赤ちゃん生まれたんですね。

Aさん：はい。

Y：それでお子さんここで育てられて、どんなことがその道中にあったとか、なんかこういう、ここどうしたら良くなるよということよりですね、その途中でこんなこと感じながら子供を育ててきたとかですね、自然に話していただければいいので、それで結構です。

Aさん：でも、何もなかったかなあ。ふっふっふっふ。

A：そうです、それが良いんです。

Aさん：ふっふっふっふ、何もなかったから出えへんかったし。

Y：何もなくてことはきっとそれは、すごく良かったということですよ。

Aさん：子供にとってね。

Y：いや、お母さんにとっても。

Aさん：家族、夫婦いうたらまた別やけど、ふっふっふ。家族にとってって言うか、子どもにとっても、環境っていうか、私にとってはですよ。公園が全部あってあの、車で危ないということもなければ、ほんとともっと足も鍛えなければいけないでしょうが、子供もすぐ近くが小学校、中学校、高校でありますよね全部が、みんなそれ行きましたよね。短大しか出してないけど、短大が遠かったくらいで全部子育ては近くで終わりましたよ。そして私自身は郵便局すぐ前にあるで

しょ、そこですね、一棟の角ですから。やからほんまに運動にはならないけど、銀行、郵便局、バス停も近いでしょ、ほんならなにかにつけてそれが一番便利でしょ。樟葉にも出れます。だから病院が関西医大でして、前は。だから病院も近いし、大きな病院が、今ちょっと大きくなりましたけれど、大きな病院が近い、何の不自由もない。

Y：言うことなしですね。ふっふっふっふ。

Aさん：そうなんですよ！ほっほっほっほ。ほんで、大きな病院でお産ができますし、しようと思えば。ほんで横に小さい病院が、自分の都合のいい産婦人科があります。母を呼んで診てもらっても近いですし、わたしにとっては何の不自由もありませんでした。

Y：そうですね。あの、ご近所の付き合いとかですね、子供さん同士のお友達の関係とかですね。

Aさん：ああ、そうですね。

Y：色んな事がその裏側にはあるわけですね。ほんで、こんなことあったよあんなことあったよとか、こんなことがすごく記憶に残っているよとか。少しずつでも思い出していただいてね、お話ししたいです。

Aさん：今の時代よりはもっと助け合ったと思います。

Y：そうですね。

Aさん：でも私は自分の子供を預けるってのはなくて、預かることばかりが多かったです。自分の人生の中で人のお子さん預かってはってやってきたけど、私はまあ、大阪に母がいましたので何とか間に合ったりで、私が預けるっていうことは全部なかったかな。でも人の子供さんを預かって、用事があるとかで、みなさん九州とかで遠いでしょ故郷が、そういう方に、親ができないから、すぐ熱でたりなんかあったら上の子を見る下の子を見るってなんらかで、預かることが多かったのは事実です。

A：子供預かってたんですか。みんなの。

Aさん：みんな、いろんな方の。

A：へー。

Aさん：自分はそんなこと言うたらあれやけど、今振り返ったんですよ、よくみなさん何を安心して預けはったんやろって思いますわ。

A：あー。

Aさん：自分で振り返ると、若いもの同士がなぜ私を選んだのだろうって思います。かといって私のあれが完璧なわけではありませんよ、先言っときますけど。

Y：知らず知らずの間に、そういう信頼関係があったということやと思います、きっと。

Aさん：ふっふっふ。

Y：それなかったらそうならないですよ。

Aさん：預かったけど、預けなかったかなあ。ふっふっふっふ。

Y：今はねそれがね、子育てが問題になってますでしょ。子供をどう預けるか、まあ仕事との関係ですとかね、そんなことはいっぱいあるにしても。

Aさん：でもね、昔からそういう関係、あの一幼稚園の関係とかやからいけますけど、あの一、私大阪なんですけど、大阪だとみんなが声掛け合ったり。ドアっていう感じが、横ですよ、今こういうドアですよ。でもそれは一番感じたのは、若かって分かったのはド

アが重たいっていうか、ドアが重たいなって感じました。そういう重たいじゃなくて、気分が。あの横開きって「おはよー」とか横にこうドアがあるからできることであって、わざわざ声かけるのって、ドアって重たいですよん。

Y：なるほど。

H：言いにくいっていう重たさ。その気軽さのようなのはありましたよね。団地というものは、そやから横やったらええんちゃうかって思ってますもん、横やったらドア開けときますやん、暑かったらちよっと開けてカーテンしとくとか。一年でもここやったら同じ階段でも会えないとかありますやん、一年でもありますやん。ありえないでしょ、でも買い物行ってます、一分でもずれたらふっと閉めます、一分ずれただけで長いこと会えへんかったねえってそんなことないんですけど。

H：同じレベルでね、こう横に並んで住んでたら。大阪ではそうやったんやないですか。

Aさん：うん、ていうかもっと気分で声かけたし、その辺では預かってたからっていうか、心許すっていうか、やっぱドアが重たいっていうか、気持が重たいっていうか、開けずらい。ほら、よっぽどのことがない限り開けないでしょ。それが大阪ではないから。戸開いてるから別に声かけれるしっていう環境で育ったもんだから、それがここへ来た時に若かっててもなんか近所が重たいの。別に悪い人が住んでるわけではないのに、開けにくい、声かけにくい、それやったらベランダで声かける方が早い、ふふ。

A：ふふ。

Aさん：ほらドアって重たいんです。

A：そのことって団地その物とか、建物の形、建物の構造とものすごく密接に関係してますよね。

Aさん：私にとってはね。

Y：いえいえ、それはみんなにとっての問題でもあると思うけど。

Aさん：横っていうのはきっとそうじゃないかって想像しただけですけど。千島の団地なんか横ですわ、見てたら。だからドアみんな開けてますねん。公団でも千島の公団は。

Y：廊下がね。

Aさん：そうそうそう。

Y：ここは階段の形。

Aさん：そうそうそう。そうですそうです。だからないことはないと思いますけど、私らはそうじゃないか。それはみんなが声かけやすかったかっていえば、それはないと思います。

Y：階段だと、階段の周りに10軒ありますよね。すると必ずそこで、一つのグループが出来上がるわけで、廊下の場合だとそれこそ素通りしてしまうとかね、いうことで顔も合わないというね、いうことも言われてます。だから、それぞれですけど、今おっしゃる話ですごくわかりやすくて。

Aさん：あそうですか。それだけです。住みにくいこともなければ何のあれもなくってねえ。

Y：結婚なさって、それですぐ団地に入られたんですか。

Aさん：いや、一年よそでいて、一年〇〇で、一年間ず

つよそ、アパートみたいなんから、こっちも一緒やんかアパートみたいなん、昔やったら文化住宅ね、それを2カ所、1年1年でこです。

Y：ああ、そうですか。それは大阪で？以前は？

Aさん：大阪です生まれたのも。結婚してから？結婚してからは、堺で1年、そこの、これ（男山）が当たるまで、昔は難しかったんです。中央公会堂で審査があって、森ノ宮で審査があったんです、くじ引きで当たってから審査があったんです。だから、くじ引きがたまたま1回で当たったんです。昔は20回当たったら一回入れて。でなかなか当たらないっていく環境の中で、たまたま一回で当たったんです。

Y：ラッキーですね。

Aさん：ラッキーでした。それだけやね、普段そんな当たらないんですよ。それだけ当たったですよ。その代わりこの高層の空き家が当たるから、2年しかたってなかったんですけど空き家があって、どこが当たるかわからなかったんですけど、入れたんです。一回で当たったんですけど、中央公会堂の審査もものすごい人で、その審査と、森ノ宮で審査をして入れたんです。今簡単に入れますよね。そんだけの審査したんです。何の審査やったんやろ。（笑）

Y：そんな話伺いますとね、もし高層の方にお入りになってたら。

Aさん：出ましたわ、それは主人と。

Y：きっと人生変わってるかも。

Aさん：そうです。それが何故かという、当たってキャンセルしたら二度と公団は入れなかったんです。高層がいややったもので、高かったんですよその時の値段が違ったんですよ。若かったんで、入った時はそれがあつたから。でも一旦入らないと続けられないから、それでたまたま低いとこ当たったんで、もう別に変わる必要がないって。

Y：高層は嫌だったっていうのはどういうところで嫌だったの？

Aさん：公団、高いの。

Y：まあ値段が高いということもある。

Aさん：だけ。ふふふふふ。

Y：それだけ。ふふふふふ。

Aさん：それだけです。別に高いのが嫌とかは。だってものすごい差がありましてん。私が入った時、ビックリしますよ、2万円だったんですよこ。

A：えー。

Aさん：えーって思うでしょ、2万円よ。まあそんだけ、生活のレベルが違いますけどね、給料がね。

Y：まあそりやそうやね。

Aさん：せやけど、2万円でしたけどなんかすごく高かったんです。長い人生の中で、ちょっと払えないかなって、単純です、若い時はそんな。（笑）

Y：ふっふっふ。

Aさん：ふっふっふ。何がって頭もかしこくなかった。

Y：いやいや、それはすごくよくわかります。

Aさん：すいません私ね、ずっと働いたことないんですよ、自慢じゃないけど、だから自分でがんばって何かをしようとするっていうのも抜けてるかもしれません。普通はね、夫婦で頑張って何かしようとかあるかもしれ

ないですけど、その目的はなかったかもしれません、はい。

Y：はあー。

Aさん：どっか欠けた人生やったかもしれません。私の人生は。ないでしょ、あんまり働いたこと、バイトもパートもいってないからどっか抜けた会話になるかと思えます。

A：いやいやいや。

Y：いやいや、そんなことはありません。

Aさん：社会を知りませんから。

Y：それはそうかも知れませんね。

Aさん：うん社会を知らないという自分は十分反省しております。

Y：いやいや反省なんか、すごく幸せやったんちゃいますか。

Aさん：え！？いいえ！ふふふふふ。

Y：ふふふふ。

Aさん：その意味のことを考えるときっと幸せでしょうね。働かずにいけたっていうと皆さんがそうおっしゃいますから。

Y：そういうことですよ。だからいろんな方いらっしゃるというのはそういうことをね。

Aさん：うん。で、周りの方で働いてない方なんかそれこそUさんと私だけやと思います。

A：あー。

Aさん：学校で集まっても、役員決めるとか言うたら全部働きに行っていました。やっぱり子育ては私三人してますんで。まともに対人なんて。やっぱり働きに行こって気持ちもありませんでしたから。環境が良かったのもねえ。

Y：息子さんですか、お嬢さんですか。

Aさん：娘3人ふふふ。

Y：ああ3人。そら賑やか。

Aさん：ははは。そうです。なんにもなりません3人でも。ふふふ。

Y：もう、今は皆さんもう。

Aさん：いえいえいえ。

Y：まだ。

Aさん：時代ですから残っております。ふっふっふ。一人残っております。そういう時代ですから。なかなかいけません。私は早く結婚したんですよ。うん。

Y：そうですね。そういう時代が変わって来てることは確かですね。

Aさん：主人は歳を行ってますけど、私は早く結婚したもんで。だから、二十歳と二十八の結婚ですもん。

Y：ああそうですか。

Aさん：そうです。だから歳が離れてるからそういう落ち着いた主人を選んだんやと思うんですけどね、はい。単純でしょ私。ふっふっふっふ、考えが。

Y：ご主人はあの、大阪でお仕事なさってたの？

Aさん：うん、大阪、あの私が生れは大阪ですけど、主人は徳島です。

Y：あそうですか。

Aさん：徳島で、25歳で出てきました。そうしてから、大阪で仕事しておりました。

Y：ふんふん。で3年後に結婚なさったわけですね。

Aさん：あそうかほんとやねえ。

Y：すごい、3年ですごいいい奥さんをつかまえたとかいうことになりますね。

Aさん：いい奥様ではないけど、ふっふっふ。40年になりますねそれでも。

Y：ああそうですか。まあその頃はどこでも子どもたちはたくさんいて、公園にもぎやかで。

Aさん：そうそうそう公園にも。あの幼稚園の学校の中のクラスもいっぱいでしたわ。いま数あるだけありました。ということは私はそうじゃないけど、第二次ベビーブームの時代でしょ、生れたのが大体、私が長女を生んだのが第二次ベビーブームの時代に、皆さんと同じように生んでるんですわ。そんな時の子供さんですねみなさんが第二次ベビーブームの子供って言われました。生んだ時に、私は早く生みましたけども。だから、主人遅い9の子ですけどね、はい。

Y：そのころの、どこのご家庭もそうだと思うけども、子供さん育てるのが中心のくらしでね。

Aさん：そうそう。もう子供のことで、うん。

Y：だから、あのだから預けに来はったんですわ。うん、安心して預けておけるっていうのが、今のようになんか預ける、保育所とかね、そういうものは当時はありませんでしたか。

Aさん：でもあそこの学童だけはありましたね、学校の学童はね。そんな、そうですね。そう言われれば何気なく暮らしてあつという間の人生でしたけど、そうかも知れません。子供安心して育てられたのはね。

Y：それは素敵なことですよね。

Aさん：うん、言われればそうですね。

Y：まああの、男山の色々伺ってございましたらね。まず、子供を育てる環境としてはね、そうすごいいいように皆さんおっしゃってると思えます。

Aさん：今は公園ほんとに使われてないですよ。時代で、昔は全部使ってましたもんねこの公園。みんながね。

A：全部賑わってたんですか。

Aさん：うん、今、孫きて連れて行行ったって帰って来てるし、私らかてへっ！？って感じやしね。じゃなくてもっとにぎやかに使ってて、親も行ってお友達できるきっかけですし。今しーんと、回ってごらんない。うん、使ってました。夕方になって電気が点いたら帰ってきたさいって怒らなあかんぐらい、それはしてましたよ。まあ、習い事一生懸命させられるところはさせられてましたけど、遊んでるお家はぶあーって遊んでましたし、それぞれですね。やけどあの公園を使っていってというのはやっぱり時代ですよ。危ないからでしょ。

Y：あんまり外にでないよねもうあんまりね。どっか塾行くとか。走り回って遊ぶ時間が少なくなってるね。

Aさん：それぐらいですかね、ほんまに環境良かったんかも知れません。公園は使えるし、病院は近いし、駆けこめますからねすぐに、病院に。大きな病院が近いですし、まず郵便局と銀行がこんな向かい同士やし。

A：たしかにね。

Aさん：ふっふっふっふ。

A：これは昔からあるんですか。

Aさん：そう、昔からこれですよ。だからほんとに便利が

良い。私ら大阪やったら歩いてるかな、だから元気で商店街歩いてるんかな、だから今みなさんマラソンとか、夜も散歩されるし、無理やり自分で歩かないとだめでしょ。ちょっと遠いでしょ、商店街行くのもなんでも、ここほんとに這って行こうと思ったら這ってこれますやん。そうゆう環境でいますからね。

Y：今何もかもが不自然な世の中になってるのは事実ですね。

Aさん：それは思いますね。

Y：まあそうしてお子さんも大きくなられて、今、当時とは違った日常というのはね、あるでしょ。

Aさん：そうですね、みなさんみたいに夫婦で二人っきりとはなってませんけどね、一人残ってますからちょっと夫婦二人っきりってのはちょっとないですけ。みなさんそうですね、年金生活の歳いった夫婦ばかりですわ。んで、汚くなるからほんとに変えたいんやけどね、私のとこは1棟なんですけどね、皆さんどの棟からか知らんけどみんな引っ越してきはるねん。

Y：移ってくるの。

Aさん：そう、みなさん移ってきます。私も台所したいなって思ったら一人に20万かけないといけないんですよ。それで、20万かけるんやったら引っ越した方ってなって、だんだん私と主人のエネルギーがどこまであるかって問題です、引っ越すとなれば。

A：あー。

Aさん：でもそのエネルギーの年齢がいつまで、引っ越したいと思ってる気持と体力がついてきませんよね。変えるってことはみなさんしないと思う、私たちの年齢の人はね。そしたら自分でできる範囲、うん、でもみなさん引っ越してきてますから。だからきれいどこに引っ越してきます。汚くなってます私のとこ、だって37年ですってビックリしますでしょ。

A：お入りになって37年。

Aさん：そうそうそう。(笑)

Y：ああ、そらそうやね。

Aさん：なんで37年ってわかったかっていうと、2人目ここで生んだんですわ、3番目と。だから2人目が今37歳だからそうやなって思っ。

Y：結婚されて40年。

Aさん：41年目に入りました。

Y：3年ほど別のとこに住んでらっしゃった。そら37年になりますわね。

Aさん：そう、37年同じとこで、子供も育て孫も帰ってきて、ちょっといややなってなって来てるんですけど、どうしよも、ふふふふふ。きれいになれば、リフォームしていただければ別ですよ。そやけどやっぱり37年の傷みはありますよ。

Y：まあそうですよね。広さはどうですか。

Aさん：あ、他のとこと比べたら私とこはまだ広い方ちゃうかなC棟は。

Y：5人で、家族5人で。

Aさん：それはね、娘3人やったからいけたと思いますけど、もしこれ男の子がいたり、何かしらであつたら、きつと考えたであらうと思います、私も。

Y：うん。

Aさん：でも、女の子3人だから、なんの差し支えもなか

った。2人と1人と部屋別、一応私たちは、キッチン狭いんですけど、こっちの部屋みんな普段はリビングとしてよそ様は使ってるんですけど、私たちいつまでたっても夫婦で、だから食べるとこも寝るとこも全部一緒です、夫婦がいつまでたっても。でも子供たちにとってはちゃんと部屋があるんですよ一応、自分の部屋が。私たちが辛抱すればいい、台所の横でおれば、ふふ、だから。

Y：今は3人になられて、ちょっと1人当たりの空間が広がって来て、

Aさん：広がってきたけどそこ今物置ですわ。(笑)

Y：じゃあご夫婦の空間はあんまり広がってませんな。

Aさん：私とこは別、みなさんとこは夫婦別でしたけど、私とこはそういうタイプではないです。別についていうのは、つくりやあでできるけど、ちょっと部屋せまいんですよ。

A：狭いですね。

Aさん：あそこで寝てはる人もいるんですけど、私んとこはあれが苦しいっていいますんで。じゃあ、こっちが娘にとられてますやん。取られてなかったらこういけますやん、だから結局いつまでたっても、ふっふっふ。あそこですねん。その性格ですわやっぱり。

Y：一番便利な形ですよそれが、何でも周りにあるというね。

Aさん：いやでも、そこでご飯食べたりとかするから私にとっては拭かなあかんやっぱり。

A：はははは。

Aさん：寝ていてね、置いといてこっち側でご飯食べるっていうのは子育て中はできましたもん、やっぱり。きれいに台所のとこ置いてたら、起きてきたらそこに部屋があるっていう部屋がありましたけども、あわてて上げて、ふふ、そんな生活されてないでしょ。恥ずかしくて言いませんけどそうですねん。だから掃除ばかりしとかなあかんでしょ。そんなエネルギー若いときはいっぱいあったけど、歳いったらまあええかまあええかってみときますでしょ、ふっふっふ。それをでもやっぱり孫が来るとそういうわけにはいかんからするでしょ、掃除にエネルギーばかりかかりますねん。どちらかというと、やっぱり娘とこなんかは、やっぱり若い人って今家買いますやん、みんなね、結婚すると。

A：そういう風潮はありました。

Aさん：うん。だから必ず、何々の部屋ってあるから、別にそんなに埃がご飯がって、やかましく育てることもなかった。私だって孫来たっていったらやかましく言うんそこですもん。そういうことだから、家の中でも幸せじゃなかったんかもしれせん、ふふふ。気にしなかったけど、ふふふ。幸せってそうじゃないかもしれせんが。今日もさっき孫言ってきましたわ「この上なに？」って。自分とこの家やったらお父さんの部屋とか言ってますやん、教えなあかんでしょ。それを4つの子が聞くとああそうかって、上があるってなんやろって初めて聞きましたわ。で、2年生の孫が来るから、これはよその家やって、ドア一つずつあるからって説明しました。そういう意味ではこの上は何って思ってるんです。まあ一番最初は、長女の一年生の

子はこれ全部私の家やと思ってはった。

Y：それはおもしろい。

Aさん：おもしろいでしょ。それぐらい今の若い方は苦労されて二人で働いて家を買いますわ、どんだけ苦労しても。私らの時代の人きつとそういう人いましたけど、私のところは石橋ばかり叩いてますねん。

Y：石橋たたいていらっしゃったかどうかはわかりませんが、この団地の住まい方というのが嫌いというのはあんまりなかったん違います？すごく合ってたんじゃないですか？

Aさん：嫌いではなかったでしょうね、そやなかったらわがまま言ったでしょうから。学校が近いこと、小学校が目の前でしょう、そういう学校の環境も近かったんですよ。一人はこっち行ったから、久御山高校とか、自分の好きなところ行かせましたから、高校は違うところかもしれないけど。学校の環境かもしれないね。

Y：それはひとつあるでしょうね。子供さん3人いらっしゃって、そういうことお考えになって。でもその別の人が住むという、隣とか上に住むとか、そういう住まい方みたいなものが好きだったんじゃないですか？一軒の家にぼつんと住むよりも。ちっちゃい時はどんな住まい方でした？

Aさん：あのね主人ね、トレーラーに乗った運転手でした。ほとんどいなかったもんですから、そうかもしれません。今思ったら怖さはないものね。考えたらなんで怖なかったのか今言われて思いましたけど。なんでこわなかったのかと思ったけれどほとんどいない人生を送ってきた。30、40手前ぐらいで一週間に1回帰るとか、向こうに、東京の方に会社がありましたから、一か月で洗濯物だけ持ち帰ってましたからという人生を送ってましたかね。それがもし一軒家だったら怖かったのかしら、それは今言われなかったらわかりませんでしたわ。自分なんで怖なかったのか、子供3人おったから怖なかったのかと思ってたんですわ、でも違う、みなさんがいるから怖なかったのですわ、きつと、ねえ、今わかりましたわ。

Y：それが知らず知らずの間にそういう関係がね、あるっていうのがね、すごく良かったと。

Aさん：いざとなったら声かけれる、声かけたことはありませんよ。いざとなったら声かけれるっていう安心感があったのかもしれない。今は特に、年いきましたからお互いに声かけてねって言いますけど。一応車で会ったりすると言いたいっこしてますよね、お隣さんとはね。

Y：その階段に10軒の家が有りますよね。その中の10軒の人は当初からご一緒だった人？

Aさん：当初からの人は5階に一軒だけ、あとは全然。みな若い人でね、みな変わりました。

Y：その人達とはあまり親しくなっていない？

Aさん：なってません。名前も挨拶もありませんし、表札入れませんよ今の方は、ポストも上も、名前もわかりません。でも水は漏らしますやろ。

一同：(笑)

Aさん：ほんで名前を入れず。1階で嫌なのはしょっちゅう水を漏らされることが変わればね。

Y：1階ですか？1階ね。ほな自分が漏らして誰かを濡ら

すことはありませんね。

Aさん：でもそれはしかたのないことやから諦めてきましたわ、怒鳴ることもなく。

Y：何回もありました？

Aさん：何回もありました、何回もありました。次ぎ引越してきた時に言いにはいきますよ、大変なことを教えますけど。人間てほら、分かってやることではないので、あれ防水できとったらいいないつも思いますけど、癖がついてるから速いんですわ、たったバケツ一杯で、洗面器一杯やから。してないって言いきるんですよ。それで無理なんですよ、証拠ありますから。だからそこへ大切なモノを置かないようにしたら自分がすぐ。私達は鏡台があるでしょ。

Y：落ちてくる場所はおんなじ場所ですか？

Aさん：おんなじ場所ですからね、目星ついてるから。だから鏡台奥にして、だんだんだんだん。今の人達は言われてるんじゃないでしょうか。本当に若い人たちはいい加減というけどそこだけはできてるんですよ、反対に。私達から言わせれば、反対に。あの入るときに言われるかなんかで、若い人たちの事のほうが反対にそれはないんですよ。家庭生活を送る人が入ってくるといい加減になってどんどんどんどんやるんですよ。でも新しい若い人は漏らすんですよ。つぎ気を付けてねていうんですよ。子供が外すんですよ、配管とか洗濯のこんなとか。今はそれこそ直接になったからいいんですけど、昔は風呂場につながなあかんのでそれをはずしますやん。洗面所の水が飛びますやんそれがダーっとこう男の子だったらこうビュウビュウって言ったら落ちますやん。そりゃみなさん体験されてますけど、この人も。

Y：いわゆる今風の洗濯機の置き場っていうのが無いっていう形の。

Aさん：いやあるんですよ、床ですから防水はできて配管がなかった。風呂場にしか。それが今は全部やり直して直接配管している。

Y：今は直ってる。

A：洗濯機のすぐこのへんにある。

Aさん：あるでしょあれは最近出来たんです。だから今は若い方のほうが、反対にいい加減とみなさんおっしゃるけど、私にとっては名前とかはしてませんが、水を漏らすことは全くないんです、若い人は。家庭を持っている人は来ると結構いい加減。

A：でもなんかそういう話誰かしてました。なんか若い人の方がなんか挨拶してくれる。年いった人の方がなんか無視して通り過ぎて行く。そういう気分悪いみたいな人、そっちのほうが多い。

Aさん：でもだから多分水を漏らすことは、多分説明を受けているんじゃないかと私は思ってるんですけど。

Y：まあ、機械と一緒に住まうことに慣れてるというのはあるでしょうね。

Aさん：私が？

A：いや若い人が。それなりの機械に慣れている。

Y：若い人のいいところは、水を漏らさないことだけですか？

一同：(笑)

Y：ほかにありますか？

Aさん：水漏らされることはホンマに大変なんですよ、普通じゃない。

Y：Aくんのような若い人がいればね？

A：これほど若い人はおられない、私の階段には。昼夜逆さまな人ね。若い2人が入りますと結構いい加減な人はいっぱいいます。昼夜逆さま。けどそれも言ったらいいと皆さんいますけどそれは相手次第ですわ。こんな時代にやっぱり。

Y：その人達には子供はいない？

Aさん：いない。いなかったり、いててどんだんが夜中1時2時までいつか終わるやろと。私にとってはね、育てることの足音なんてね、終りが来るでしょ。私母見てるんですわ、90ぐらいの自分の母を。終わりが無い人と、子供は成長していきますやんか、そやから私にとったら許せるんです、足音は。別に本当にうるさかったら寝ますやん。そりゃ11時だろうと12時だろうと子供の足音はたしかにすごいですよ、でも私は許せます。成長するっていうのは分かってますし、子育てしてきたから気持ちわかります。それだけですわ。それ以外のことで、そりゃありますけど、それ言うんだったら、私の考えですよ、それを言うんだったら、この共同生活をしてはダメだと思ってますわ。共同生活が嫌だったら出たらいいいことでしょ、本当のこというと。それ人に言われたらそれまででしょ。自分の心のなかで決めてるんです、それが嫌なら出ない。

Y：それはそうです。

Aさん：共同生活嫌なんですから。私ある程度配管の水の音許せますもん、トイレの水の音許せますもん。だからこんないちいち気にしたら、じゃああなたはって言われた時に自分も苦しくなりますよ。自分も完璧でないといけないですよ。

A：いい事ですね、共同生活で一番。

Aさん：共同生活で入ってるんですよ。共同生活が出来ない人はまずここに入ってはいけません、私らから言わせれば。文句をばっかいつてる人いますけど、その文句は、ここに入ってはいけない人ですわ。

A：最近ね、僕4階なんです。5階に最近引っ越しきて、子供連れで。それで初めてわかりました、うわってなりました、こんな音響くんだと。

Y：足音？

Aさん：ほんでね玄関から帰ってきたら、帰ってきた、帰ってきた、帰ってきたって分かるんですわ。

A：階段の音がわかりやすいですね、上がってる時。

Aさん：静かな時がすごいですね。だから私娘いますけど、昼にかちゃかちゃしたら怒りますし、ドアはゆっくり閉めるとか、古い親やから説明できますわね、そういうことはルールです。そういうことを今の若い人が知ってますかっていうのが、広いうちで育った方にいまさらそれを知って教えられますか？と思うんですよ。私は。反対にこういう環境で育ってない人は無理ですよ。育った人が初めて分かることでおなじ団地だとか、だから躰けてはおりますけど今の若い人はそれは無理です。

Y：今の若い人と全部ひとくくりにするわけにはいきませんけど。大きいうちに住んでいる人も、育った人も、小さな家で育った人もみんないろいろいるから。

Aさん：私は躰けています。ドアのしめ方と。

Y：そうですね。

Aさん：階段の音と。やっぱり夜ある程度時間なればとか、それでもねガツチャンとなります、外は。

Y：まあ、建物の構造がその程度でできているから。まあそのほうが人の気配感じていいというようなことも無いでも無いけれど、ほんとにはちょっとまずいですね。

Aさん：なんかそういう事言われますとやっぱり、良かったから。そうかもしれませんけど出る力がないからよう出んかったんかも。

Y：その階段のお付き合い、もう少し別のお付き合いというのかね、そういうのはなにか発展してあります？

Aさん：私は、すいませんけど若い時から甲状腺が悪かったんですね、あんまり役員しなくて、人の中に入ってたっていう活発なタイプではなくって、でも子供の関係の知り合いはいます。それだけの付き合いですね。最近は狭心症でステント入れてしまっていて、そうして運動が足らんのかしりませんが、だからといって寝てたからといってそれが気になるということでもなく、それは忘れたこととして動いてます、はい。そういう病気を気にしててもきりが無いので。

Y：まあそうですね。

Aさん：だからよけいにここでしようっていう、余計になりましてね、いまさら言うのがね。きれいなところに住みたいんで、みなさんみたいにこういうちょっときれいなって、でもちょっとね何年も使ってるかもしれないしね。病弱になっていくのも皆さんですわ、でも聞いても年いった方が、年寄りばっかです。若い人が混ざってるのは極端ですわね、年齢のその差が。70を越した方と20歳代の人、もう落差がすごいですわ。で5階の空き家は何年も空き家です、もう私が知ってるだけで中学のときから、6年7年空き家です、5階は私の階段でも。そんだけ5階は入ってません、向かいの棟も5階は入ってません。でもみなさん77万戸あるんだから覚えておきなさいねと言われて、77万戸あるんですか？団地？

A：77万もないですよ。4000...

Y：戸数ね？

Aさん：そうですか、私の覚え方が悪いのか記憶力なくなってきたから。

Y：URの戸数のトータルはだいたいそんなもんです。

Aさん：77万ですか。それだけ記憶にあるから何か言わなあかんかなと。

A：男山でですか？

Y：いやいや違う全国で。

Aさん：ここは一応マンモス団地ですよね？

Y：大きいです。

A：ここは4,600から5,000...

Aさん：って言われたんですよ、で税金で建ってる。ちらっと頭で覚えてて、税金で建ってるからって。

Y：まあ元はそうですね。

Aさん：私達の税金で建ってるんですか？

Y：元はそうですね。

Aさん：だからってなんなんやろ、税金で建ってるからってどう。

Y：大いに使いこなさなければならぬです。

Aさん：えー。
Y：このあと長く。
Aさん：え、大いに使いこなさないといけないとはどういう？
Y：自分のためにね、なるように。
Aさん：そういうことを言っはったんやな、じゃあ。
Y：そんなことを言っはったんかどうかはわからんけれど、自分のためになるように大いに使いこなさなければいかんし。
Aさん：自分の税金やから。
Y：まだこれから長く使っていかんならんし、財産ですからね。
A：あの子供預かってたという話をもっと聞きたいというか、それはいつごろですか？自分のお子さんが同い年で、それは小学校の時？
Aさん：いえいえ違う違う。ちっちゃいちっちゃいちっちゃい、おむつ変える頃。
A：そんな感じ？
Aさん：そうよ、だから安心して預けられるでしょ。
A：そんな所に預けてたんですか？
Aさん：上の方の子を預かってたり、そうねみんなが二人とか三人産みはるからやろうけど自分の子がこんなやのにこんな預けるから、今なったらあたい思いますもん。こんなよう預けはったなって。その時なんにも思わんと、大切に見なあかんから、おむつとか。
A：預けてきた人は仕事だからとかですか？
Aさん：違う違う。
A：もう一人いるから？
Aさん：もう一人いるから。何かの用事ができたからとか。私それでこそ団体が苦手なんで、コーラス部に入ってるからって、コーラス部に行くからって、毎週なんで、お決まりなんです。それでちょっとどうなんかなと思ったんやけど、まあいっかつと思っ。コーラス部に上の子幼稚園やから行ってます、下の子コーラス部に連れて行ったら邪魔です、じゃあ私がって。だからお決まりの子もいてたんですわ。でもなんの苦もなかったんですわ。
A：今やったらね、それするのにもどこに預けるとか、誰にあずけてもらうとか、それでお金発生したりするんで、それがやっぱり近所付き合いが出来る...
Aさん：そうやね、なんの発生もないよね。もしそんなされたら気遣ってもう今度から預けへんわな、私らの時代は。私の子も育ててるんやけどお昼ごはん作って食べさしたり、焼き飯ぐらいのもんやけど、離乳食ぐらいとか、まあミルクとか、おむつ替えたり、自分のやってることやからなんの苦にもならへん。お昼寝したりとかやから。何軒やろ？ば一ときて遊ぶのとは違うからね、本当に乳飲み子ですね、そんな何軒もありますよ。
A：何軒も、噂になってたりとか？
Aさん：(笑) それが私いてるんで、それはなってません。私付き合いにやかましくないから。そんなみんな変わってないですよ、いまどきの若い人でしょそれって。昔はねよっぽど困って、困って預けはんねん。そんな気軽に預けるなんてそういうええかげんな人は、まず私はそういう付き合いしないもんね。そうそう確信の

確信やもん、お互いに、安心感と安心感やもん。そんな人に預けへんし、私も付き合わへんし預からないね、何かあったら言われるもんね。それと子供さんが入院したらつきっきりで見とかなあかんから、私がずっと見とくとかね、小さい子が入院すると、お母さんがつきっきりですやんか、24時間。そういう時はお隣同士やから、見ましょかいって。ず一と見とく。ようするに今考えたら見てばかりで、(笑) 今自分でもおかしい話やなって、みんななんで来てたんやとは思いますよ。そやからUさんやったら知らないと思います。あの人達のしゃべることは子どもたちがものすごく、同級生ですけど、ものすごく大きくなってからですから、お付き合いがね。それまでは私なんの役員も出来ないでしょ、体基本的に弱いからですから。それで逃げてきて。
H：そのころってエアコンとかあるんですか？赤ちゃんのお昼寝とか。
Aさん：ああ、もちろん。ここは暑いですからすぐ付けましたよ。
H：そうですか。
Aさん：電気屋さんここでしたでしょ。電気屋さんは決まってる。公団、役所やなかったら穴が、昔ですから穴を開けるのはこの契約書と公団の契約書もらって初めてやから、よそのみたいに今はヤマダ電機やなんやで買いますけど、契約が許されなかったです。だからクーラーつけるにも、それ無茶にする人はしてましたよ、でもそれバレた時怖いでしょ、必ず事務所入って書類もらって、その書類を電気屋さんまで行ってつける。それが基準ですもん。だから私達が付けませんから、業者の人がクーラー付けますから。クーラーはついてない日はなかったと思います。そうですね、今こそ自分でね、余分に違う部屋につけたりしますけどね許可無くね、でも片一方の方は許可もらってますもん、必ず公団の許可。もう今穴あいてるから許可もらわなくても、私ら穴あいてないから開けなアカン。
A：留め具みたいなものがついてます。それをつけるための。
Aさん：だからそんなもんですかね。環境が良かったのか人間性も良かったのか、その人様の人間関係が良かったのかもわかりませんね。今やったら不安感が有りますよね、どっちも許せる環境の人かな。
H：一階やと戸締まりというか、わりとある程度...
Aさん：私のところ一番角ですもん。何が嫌って、湿気がすごくかび臭いんですけど、その2つ3つ、4つ目ぐらいがやられるんですよ。角ってね街灯がね、病院があつて坂のところにも街灯があつて、ゴミ箱の前にも街灯があつて、街灯がありすぎて角って入られたことがないです。何十年たってもね。それでも聞くのはちょっと何戸か向こうですね、聞いたことがあるのは。意外と泥棒って入るより下着泥棒ですよ。お金の泥棒よりはどちらかと言うとそちらです。私も1回だけ、30年住んで1回だけやられました、あなたこ越しね。どこ持っていったかといったら向こうの方にほかしてましたり、クーラー付けますから、洗濯物こうして選って、娘ばかりです。面白いこと言いましょか？こうして私のよけて、娘のだけ抜いて、私のもとって

いってって感じでした。

一同：(笑)

Aさん：そうでした。それがなんで昼間にしますねん。昼間にしますねん、夜じゃないで、夜干しじゃないで、昼間ですがクーラー付けた時が危ないですわ。それから絶対全部かくれて干すようにしてますよ、私のところの洗濯物見えませんよ、パンツはいてないちがうかと勘違いするんじゃないかな。

H：クーラーつけたら？

Aさん：あぶないですわ、閉めるから。ほんで昼にたこで干しますでしょ。

H：あんまり外が分からへん。

Aさん：それでやめました、その干し方は。娘三人ですから、選れますやん。

A：選れる (笑)

H：洗濯物がクーラーつけたらパーっと。

Aさん：パーっとじゃなくて自分で手でのけますやん

A：自分で選択するんです。(笑)

Aさん：選ぶんですわ、選ぶんですわ。それできるんですわ、クーラーで閉めるから。でも二度とありません、私注意しましたから。なぜそれ言うかいうたら、娘って下着が高いよりも水着が高いんですわ。何万とするんですよ、ブランドじゃなくても。水着って1万ほんま平均ですよ。1万以上は絶対するんですわ、ブランドじゃなくたって。

A：小学校のやつですか？

Aさん：(笑) いえいえ娘の、もう20代の娘のんで。水着って今安いでしょかね？多分、わかりませんか？あの、一万以上必ずするんです。それで中途半端に取られるから、組み合わせがなくてもものすごい腹立つらしいですね。自分でやっともうけたのを。

Y：組み合わせがね。(笑)

Aさん：だから腹立つんです。下着じゃない、水着を取られる。今1階ですからね、1階の角ですからね。それから注意をすともう二度と、30年に1回しかありません。それは余程の注意です。してませんそんなこと、自分が悪い、自分が悪いと思うから置いとくのが、違うところ干せばいい。家の中ではないですよ太陽当てたいから、分かんように。

A：1階だからこそ、他そういうのありますか？例えば道沿いでめっちゃうるさかったという工事とか。

Aさん：私が一番嫌なのはね、そういえばね実は自治会には入っておりません、あの、私が嫌なのは猫に餌あげること。野良猫増えるでしょ、皆さんは上ですから、うんちをします汚い話ですけど。そしたら雨が降ります、匂いが上がってきます。その人はいくら言ってもいくら言っても、でよそからきます。バイクに乗って一周して餌あげるんです。その人捕まえて言っても聞きませんでしたわ。ほんでだんだん弱ってくる病氣もしますでしょ、猫は餌を当てにしますから。だから私にとっては一生分あげるならって自分の責任感って大事だと思うんですわ。ほんならあんたが飼いなさいって言ったんですわ、あんたが飼いなさいって。で飼える力あれば、飼われへんって、いや飼われへんかって。一時うちのベランダに全部ですわ。で子拾ってきてネズミかなんか持ってくるんですわ、猫が。

ほんならやっぱり目が開くまではほっとくでしょ、餌やるわけ無いでしょ、親がガ〜って牙むきますから。拾ってはあげるんですわ、そんな時代がありました、ここ十何年か。で私が個人的に自分の階段とか、名前も分かってますでも言えません。でも自治会っていうのは元ここらへんに箱があって、悩みを訴える箱がありました。入れます、色んな物のあれがありましたが無くなりました。私はその時にものすごくひどいなんてかいうたら、汚い話ですけど、犬飼っている人は餌を持てます、で野良猫に餌をやります。私いうときますけど動物大好きですわね、どれもこれも私大好きですわね。だから野良猫にも声かけますよ、今日は寒いあんた大丈夫？とか。餌もらうのに時間が来たら今でも並んでますわ、車の下に。もらうのとか、もらっている餌を私は引いて捨てるようなことはしません、好きです。けど責任感を持てるかと言うたら持てないでしょ。命ありますやん猫ってね。でもつぎつぎ増えますわね、不幸なことに。私は張り紙をしました、猫に餌をやるなど。なぜかいうたら猫が犬の餌を食べたらどうなると思います？同じフードでもぐわっともどすんですわ、自転車置き場。その掃除はしませんわね、あげた人はしません。結局娘はバイク乗ります、ゲロはいてます、掃除わたしライラしながらします。その時だけはたしかにこんな穏やかではありませんよ。水漏らしたりとかも腹立ちますよ、そんなのはすごく、その責任感、自治会に言いました、その時の。そしたら自分で交渉しなさいっておっしゃるんですよ、自分で、わかります？あげている人の気持ちと絶対あげたいんですよ、その人は一生治りませんよ、あげないでくださいと言っても。飼ったらいいじゃない、私にとっては、私は飼いませんよ、動物好きやから飼いたいねんで、犬も飼いたいねんで、我慢してんねんで、それでもそれ間違いでしょ。でもその判断をしますと、やる権利も無ければあげてはいけないっていう法律もなければ、やってはいけない法律もないところ来るわけですよ。そしたら私どうします、負けでしょ、で張り紙をしました。聞きません、何十枚もポストに入れるのも大変だから、一枚階段室に貼って下さい。犬を飼ってはいけませんなんか貼ってあるのでなくて、餌をあげないで下さいと、聞か聞かへんは別として、それも自治会としてはしてもらえません。じゃあ自治会の意味は何かって。自治会って入ったらお祭りがあって、それだけかというともう子供はお祭りいきません。何にも私にはメリットは、メリットというといやらしいですけど、旅行行ける人はいいですよ、私にとっては何が有ります？自治会の中身をもっと知りたいんです、自治会に入っても何もないです。私一つ解決してほしいと思ったのは猫ですもん。けど上の人には何の害もないでしょ、下のものだけでしょ猫ですわ、未だに直りません。ゴミ箱の下においてあれゴミ箱の人が掃除したらいいわって考えでしょ、公団ですから。猫ですわ、帰ってきて自分のところに餌があったら、私のところ1階でしょ私の降りる階段に置くんですわ。私がやっていることになって、猫がニャーニャーいうて掻いて玄関どろどろにしますわね。私は猫嫌いじゃないから汚い鼻したら猫の鼻をふいてやる、

風邪ひいてるんやなあと思ってそれはします、餌はあげません。餌をあげたら一生気になりますやん、あげたい気持ちはあります。けどそれって不幸でしょ、一生見れないのに。でもあげてます、それってどうしようもないです。

Y: 今も続いている?

Aさん: 続いています。あげる人はあげますよいつまでたっても。あのゴミ箱の下にこうやったりとか、雨の日はナイロン袋に入れて餌を入れて自転車置きます。家よこ自転車置き場、置きます。もう誰って言いたくない言ったってしますよ、うん十年してはるんだからそれはしますよ、もう絶対しませんとかなりません。誰のあれにも出来ません。

H: 団地の外の人、中の人? 餌をあげる人は?

Aさん: 外もありましたけどだんだん病気で回られへんようになって、ほんとで今は中の人です。中の人の名前言えますよ、中の人いっぱい言えますよ、この人あの人言えますよ、言えますよ、名前も出せますよ。言えません、ふっふっふ。それはやっぱり私がさあここ出るころになったら言うかもしれないですけど、直りませんよ。でも言いますけど、あげたい気持ちがあるのに買ってでもあげるのに、で家の中のものを残飯あげるからそれいちばん困るねん、きつないべちゃっと踏むから。でも私も動物好きやからその気持ちはわかります、でもいっぺんあなたが一階に住んでごらんないということですよ。臭いがねああのウンチが、主人がうんちを拾ってナイロン袋に入れてほかすんです。でまた臭いがあるから、ありがとう土掘ってくれたんってまたそこにするんです猫って。猫って臭いがある間もずっとするんですわ

Y: 猫の排泄はくさいですからね

Aさん: 臭いですわ〜。猫飼ったことないけど嫌いではないですあだし、全然嫌いではないですけど、猫、犬も動物大好きですけどーその無責任さ、そこはそういうところそんな人は役員してるんですよ不思議と、ふっふっふ。

A: いいと思って。

Aさん: んーいいともなんとも思わんと、かわいそうからだからと思う。ただのかわいそうや、みてたらかわいそうやろ、子猫みてたらかわいいやん。あげたい気持ちは十分わかるねん。でもそれは不幸のつながりですよ。結局それが親になって、兄弟で子ども増えて、黒ばっかりがいますよ、黒色ばっかりしか生まれませんねんここ、黒ばっかり、違うのが混ざらんから。

A: ごみ箱のところにいましたね。

Aさん: そうそうそう。であの時間見てごらんない、よう知ってますねん。明るい時間、明るかっても7時、暗かっても7時って、時間わかりますねん。

A: 7時

Aさん: 7時になったら車の下にずーっと並んで待ってますねん。誰を待つんやろね、でもあたし位やと思います、歳が。だからあたしがくれるんかなーと思ってびゅーと寄ってきて、嫌いじゃないのわかるから寄ってくるんですね、寄ってきてあつ違うわと思って戻るんですわ。ごみ箱にごみほかしにいったら、あ、くれるんかなーと思って付いて来てて、あ違うわって思うん

です。私の今一番は、まあそれかな。

Y: ふっふっふっふ。

Aさん: ふっふっふっふ、猫かなー。だって猫、セメントでも糞しますもん。

A: 洗面所?

Aさん: セメント。

A: セメントね。

Aさん: セメントでもしますよ、土が無かったてしますよ。その掃除も結局一階のもんでしょ、上の者がしますか? しませんやん、ほんとでエサやってる人はしませんが、もうやる気持ちだけ。でもどこでもあることですよね? これ。

Y: まーそうですね。団地だけじゃなくて。

A: まーでも一階はいっぱいあるじゃないですか。この団地。

Aさん: ん?

A: 一階って各棟に。

Aさん: あー。

A: そういう風に思ってる人って。

Aさん: うーんどやろね?

A: なんか端っこやから。

Aさん: あっそうそうそう、端っこやし自転車置き場で入りやすいからって主人はいうんですわ。その道がねスツと抜かれるからかー、うーん。そやねほんとやね。みんなおんなじ考え持ってるのかな? そんなアンケート自治会の人が作ってくれたらええのにな。

Y: そうですね。そういう小さいことがね、ストレスのもとになることってのがずいぶん多い。

Aさん: めちゃめちゃストレスですわそれ。臭いから、なにをいっても。

Y: それはそうですね。

Aさん: 雑菌でしょー?

A: 1階はだって人気ですよ、やっぱり。

Aさん: そうですね、でも1階のよそよその家は曲がってる1階ですけどうちみたいな、1階はすごいカビでくさいですよ、カビだらけですよ。

Y: その一ご主人は今はお仕事は、働いて...

Aさん: してません。

Y: もう家にいてらっしゃる。ご主人は日常どんなことをなさってるんですか?

Aさん: なんもしてません。

Y: 何もしてない、ふっふっふ。

Aさん: それまでちょっとでも動いてましたけど、今はちょっと動いてませんねー

Y: 何か特別な趣味は?

Aさん: 何もしてませんねん。

Y: あそうかー、なにもせんのが趣味やねんな。

Aさん: あそれでもー、プランターになんかこう野菜とかはなんかやってますよ、そういう。

Y: ほー

Aさん: なんか花を植えたりとかーは、前はしてたんですけど、ペンキ屋が潰していったから。どっか花植えてたんですけど、もうみんなぐちゃぐちゃなってお父さん諦めてしまいはってへっへっへ。そういうことは嫌いではありません。だから今でもなんか植えて、なに植えてんのかな、キュウリかなんか、あれ瓢箪植えて

ますわ、だから何にもしてへんことは無いかなふっふっふ。

Y：うーん

Aさん：プランターに植えたりとか、それはしてます。

Y：いや結構それ楽しんでらっしゃる。

Aさん：楽しんでますねー、うんー応はねー。なんにも、それくらいかなー何にもしてない言うたら怒られるけど体動かすとかはねー。

Y：あの一男同士の付き合いっていうのは、なかなか世の中では発生しないでしょう。

Aさん：あっ無理ですねー。

Y：ここでも一緒ですか？

Aさん：一緒ですねー。

Y：うーん。

Aさん：そうですね働いてる時だけでしょいか。

Y：うんまあ職場の付き合いは、まあもちろんみんなそれが中心やったけれど。

Aさん：まあでも職場を離れると男の方ってそれが終わるんですわー。

Y：そうそうそう、困るんですわそれねー。

Aさん：終わってもう全然ですねー、うーん。男の人はそうですねー、だからー今頃なって、私がしてたこととか子供の事とか分かっているみたいな感じですけど、何も知らないで仕事だけですもんねー。だから繋がってなんらかに入っていけないとないでしょうねー、老人会なりあんなんに入っていけないと。

Y：そうですねー。

Aさん：今のところねー入ってませんねー、私も入ってません。老人会60から入れたのかな？65からかな？年齢がね決められてたんでね、だから主人も入ってません。しよせん田舎のもんなんで、田舎もんなんですねー。だから難しいんじゃないかな。

Y：うーんまあしかし。うーん。

Aさん：人とかかわりはでも持ってますよ。その周りの人と花の話をしたり、結構関わりは持ってますねん、花につながりの会話してますわ外に出てね。

Y：いやいやそれ、それがつきあいですわ。

Aさん：あっそれは付き合いか、ふっふ。それって話の付き合いですか？

Y：いやもちろんそっから始まるわけですよ。

Aさん：あっそれはしておりますね、はい。

ほんで隣の方がお年いっててから、木切って言ったら自分の植えるん邪魔やったらお父さんが切ってますねー。

Y：はいはい。

Aさん：ご主人がお年いって切れへんで寝たまんまやからー、うちの主人がしてますかね、そういえば。

A：じゃあ結構・・・

Y：うん結構いろんなことしてなさってる。

A：いろんなことしてるっふっふ。

Aさん：え？してるんかなー？はっはははは

Y：へっへっへ

Aさん：言われたことに関してしてお手伝いしてるかな？

Y：いやいやそれはたくさんさってますよ、だんだん広がっていったらいいですね。

Aさん：木一本こないだ切っただけですよ

A：木一本っふっふ。

Aさん：あの一まだ家におって一年ぐらいですから。

Y：ああーそうですか。

Aさん：だから五年間は働かなかってバイトみたいになんかこっただけね。普通に定年してもね、つい一年ぐらいですね。だからそれしてるのかな、交流かな。会に入ってたかをするってことは無いけれどもね。

Y：今お孫さん来ていらっしゃるって、さっきそんな話ちらっとあったなーと。お嬢さんはしよっちゅう帰ってこられるんですか？

Aさん：しよっちゅう帰ってきません。あの一孫だけが来て。

Y：今日はお孫さんだけが

Aさん：来ておじいさんといってますけど、はい。あの枚方ですから。

Y：あー近所ですね。

Aさん：娘がね、はい。だから少し見れますね、見ることがありますねー。夏休み、こっちを楽しませてくれる感じでですけどエネルギーをもらおうというか、普通のごくごく平凡平凡の事です。

Y：そうですね。それがなかなかできてないんですよみんなね、平凡がね。

Aさん：でもほりさげれば平凡かどうかは。

Y：うーん、いやそうですよ。だからこんなお話伺ってるんですわ。それをうーんとまとめてしまったら平凡になっちゃうけど。本当は平凡じゃなくって。

Aさん：うん。

Y：本当は平凡じゃなくって。

Aさん：そうそうその都度の悩みとか、その都度の何かはそりゃ勝手があります。何にもないとはね、他人さんに言えないこととかいろんなことがあります、はい。

H：あれあの一、だいたいこう高齢なっていくとこうご主人、普通ご主人のほうがちよっと先弱的な、きませんかね？そういう時5階とかやったら大変ですよ、上り下りとか。

Aさん：はい今5階の方が、あの一、上り下りものすごい大変になりましたわ。

H：ですよーね。

Aさん：こないだはお母さん、私に話しはったけど、5階のおばあちゃんつい最近やね、まだ49日来たか来るか来えへんかぐらいで一、亡くなりましたわ、5階のおばあちゃん。それで見なくなったのが7年間でね、見てましたわ。亡くなりました最近、49日ぐらいです、ちょうど今ぐらいがね。で私と一緒にしたから、同級生の子で、そこのご主人がおばあちゃん見てはりましたけど、そのご主人が今下りるのが一日一回やっとか、だんだん大変でした。そのおばあちゃんはほんとにお元気だった。95まで生きはったんですけど、上がり下りが大変になって、ぎりぎり。お嫁さん先亡くなりはりましたよそのご主人。だから、私とそこだけが、同級生の男の子とうちの娘でしたけど、うちの娘はいなくなったけど、息子さんがまだいるんですね、あの結婚されないで、でお父さんと二人になりましたわ、おばあちゃんといってたんですけど。5階だから大変だって。確かに私もこないだ亡くなった時に、もう家族葬だけでしたから私だけしか行ってないんですけど、

上がるのに私もきつかったですわ、5階までが。1回やから上がれますけど毎日の生活は。あれ荷物が無かったら楽ですよ、まだね休憩しゆっくりあがれば。でも杖ついて降りるようになりましたね、73かな、73でもそうですわ、病弱ですと。

Y: なるほどね。それはそうですね。

Aさん: 元気な人やなくて病弱ですからね。それでも散歩しようところら辺歩いてますけどね。そうですね5階は大変です、エレベーター無いですからね。でもこの古い建物に今それエレベーター付きますか？

Y: うーん。まあ良くそれは話題になるんですけどね。

Aさん: 無理でしょ？

Y: なかなかね。つけられないことは無いんだけど、何かと難しい。

H: まあ一お金かなあ。

Y: お金なあ。

Aさん: それと、あの同じ1階でも同じようになってませんよね？きれいに。私のところのお向かいさんが、えと一番最初にえっと4年前ですか、すっごく全部やり替えたんですよ。私のとこの向いすっごくきれいですよ。

Y: それはご自分で？

Aさん: ううん公団が。

Y: 公団が。

Aさん: うん。そのパターンを。

Y: いっぱん出て空き家になって。

Aさん: なって、ものすごい今もう。その時のやり方を次一階が空いたら全部その形になるんだと私は思ってたんですけど、なってませんわ。

Y: うーん。

Aさん: うん。それは見事なってませんわ。そらすごいですよ、私の前は。きれーですよ、だって4畳半の私らいる台所からこういくでしょ？

A: はい。

Aさん: それないんですわ。あれ今一えーと洗濯機置くっていう真正面にちょっと木でこうへっこんでるかなーお宅なんかやったら。あれドア空くんですけど向きがね、4畳半で北側で、こう4畳半で正面から入るんですわ、こう入るんじゃないかと。

Y: あそうなんですか、玄関からこう。

Aさん: うん。こう完璧に。

A: こう。

Aさん: そうそうそうそうそう。ほんで、今物置いて二つあるでしょ？

A: はい。

Aさん: あれが一個なって、一個減らしてこっち側に洗面所ついてこっちむきですわね玄関に向かって。

A: へー。

Aさん: もうまるっきり。

Y: 間取りが。

Aさん: もう向きが変わって。

Y: 変わってつくってある。

Aさん: そう。北側もかえて何もかえて。であの車いすで行けるようになって、すーっごく羨ましい形なんです。

Y: うーん。

Aさん: その形が一軒だけですわ。

Y: うーん。

Aさん: 二度としてません。一階が空いたからって、普通に畳替えて、普通なんしてるだけで。

Y: 実験的にやったのか、或いは車椅子対応の家っていうのがあるんですよ。

Aさん: 実験的にやったんじゃないかなーっと思うんですけど。

A: C3棟の？

Aさん: C1棟。私とこの向かいやから。1棟の102

A: あ一向かいって階段室の向かい。

Aさん: はい、そのドア同士のね、102。だから私工事してるとこ見えますやんか、だからもう考えられへん向きなってますねん。排水も、洗濯機だって、あのえーとだから私だったらドアでぶつかったりしますやん。それがもうちゃんとしてあるので、平ら、あのお風呂場も何もかもが平らで、あの同じ

A: あーそんなんじゃない。

Aさん: そうない、ものすごいきれいよ。隣のやけど見してあげよかって感じやけどすっごくきれい。わたしとこドア開けたらすぐ37年のきったない壁の汚いねん、全然なんよ。

H: その家はどなたかお住まいなんですか？

Aさん: 住んですねん。それも何回かわるんでしょーね、その空いた時に、私工事してる時に申し込んだら私その時、4年前やから年齢が足らんて言われんねん。主人と私を足しても私が60になってないからあきませんって言われんたんですわ。

H: 高齢者用か。

Y: うーん。高齢者用やね。

Aさん: そうでしょうね。ほんで、主人はそのいけててんけど、私が足りませんって言われたんですわ。で、向かいやから引っ越したら楽かなーと思って。

Y: それでベランダ側から車いすで入るようになってないんですか？

Aさん: なってないです。

H: そうじゃないんか。

Aさん: 普通に階段上がってね、あの一なってたんですわ。高齢者になったんかなって、ほんでその方はすぐに引っ越しましたわ。2年程いてたら、で今の方が入りはったんですけど土台がきれいだからね、もう基本的にゼーんぶ外せるんですよびっくりするくらい。公団の家はずしてゼーんぶ。あの押入れも階段にするから、ぜんぶ。

Y: そうですね。パタパタっと外せる。

Aさん: その条件っていうのは今はありませんわ。60なろうと50代であろうと。あの、二人の歳が結構いつてたらいけるんですわ。時代が変わったらたった2、3年ですけども。私は主人と離れてましたもんで、その時間が無かったんですわ。でもお隣だけきれいですよ、そういうのんをできあがっていったらいいのにないんですよ。この公団もね。もう無駄なのかねー。しても。

Y: うーん。何を無駄なんでしょうね。それ評判いいんじゃないでしょうか。

Aさん: そらいいでしょう。私がもし実行してあの老人の

説明会をこっちにいったんですけど、それ家賃上がったいきますもん。

Y：あーはあはあ。

Aさん：今よりも。

Y：それがあれやな。

Aさん：家賃が高いですよ、引っ越したとしてもね。それならお向かい位のあれがあればいけるかなーとか思うんですけどね。そういう構造も今つくってませんよ。結構費用かかるんじゃないですかね、一からすることに対して。向きかえたりしますから、ものすごいかわりますからね。

H：あとちょっと話変わりますけど、あの娘さんたちが、赤ちゃんやなくて今度は幼稚園、小学校くらいまでいったりした時に、どういうところが遊ぶ、遊ぶ言うか、家以外で過ごすんですか。

Aさん：いいえだからこの公園。

Y：公園

A：公園がわんさかしてたらしいです。

Aさん：わんさかしてる。

A：全部の公園。

H：わんさかしてるっていうのがすごい光景。

Aさん：そうそう、第二次ベビーブームの時代ですから。

この公園が今はひっそりしてますけど、この公園で遊んで呼びにいったとか、子どもだけ、だから子どもだけが遊んでてもなんの不安感もないんですわ。なんでか言ったら、あの、車が来るわけでもないでしょ、この公園中の団地って。だからほっとくれるんです。ある年齢が来たら、2年生まで気にしてたら、もう後からはなんの危ないこともないですから。外から来る方、一軒家の子が来る時はまあ自転車で来てるんやろうけど、なんのあれもないので、みんながそうして育ってきました。公園で遊んで帰ってくる。うーん、で終わったかな。そういう人生でねー、公園にはねー。と家で遊びあいつこ、ほとんど外へ出たかったら公園ですわ。だって広場がありましたでしょ？どこか7棟の方には、あの広場が、お祭り広場がものすごく遊ぼうと思ったらアイススケート、ローラースケートか。あの流行りましたわね私らの時。あのアイス、ローラースケートとボール蹴りはあのおっきな広場でできますから、公園ではできないけど。だからもう子どもにとっても何の不自由もなかったんやな一遊ぶことに関しては。どこへも行きません、どの公園、山ほどありますもん。

A：山ほど公園あります。

Aさん：でしょ向こうの方にも中学校の方にも一個ありますし。だからなんの不自由もなく、そうですね、公園。

Y：ここは本当に空間のゆとりがね、あってそれがすごくいいですね。

Aさん：だから怖い人が来るっていうことも無かった。安心で。

Y：人さえいればね。

Aさん：それと学校も開放出来てましたからあの門が。だから学校には遊びに行けるし、幼稚園の門も空いてますから遊びに行けるんですわ。

Y：あーはいはいはい。

Aさん：学校のブランコも乗れて、学校も開放出来てて、

今こそ門閉まってますが、それまでやらなかったから。学校の中にも遊びに行っていました。

Y：まあそれみな子どもたちがたくさんいるっていうこと前提で。

Aさん：そうです前提で。校舎も空き校舎が無いってことですわ。今空き校舎いっぱいでしょ、合併制定とかもやって学校閉鎖ですから。あんな時代じゃないから全部使ってた。1, 2, 3, 4, 5ってこう全部。第三、第二。ここ桜小学校ですけど第三小学校ですわね。

H：公園で元気に遊ぶ、遊べる子と赤ちゃんとのぎりぎりの境目、ちょっとちまちまっとなって、即公園デビュー？

Aさん：え？

H：赤ちゃんからちょっと家の前で遊ぶっていう順番があるんですか？

Aさん：ちょっと家の前では遊んでました。今駐車場なってますけど、家の前が今駐車場なってますけど、そこにちょっと砂場っていう砂で植え木でありましたやんか。親の目の届くところとか、女の子でしたからね。

Y：そのころは駐車場に車置いてなかった？

Aさん：駐車場なかった。いま駐車場できました。

Y：駐車場増えたからね。

Aさん：あれは増えた。こっち側が駐車場は元々で、皆さんが、息子さん娘さんが乗るようになってから私たちは家を出た瞬間に駐車場、あれは新しくできたんですわ。10何年なりますけど。あのときは遊べたんです。そのとこで遊んでました。

Y：でしょうね。

Aさん：ちっちゃい間は。

H：公園までいかんでも元々その近場にもあったんやね。

Aさん：近場に何もありませんけど、まあ遊べますわ。そこから出入りしてね。まあでも駐車場ができたために、今の子どもさんはどこに行ってるんでしょうねそういえば。それと、サークルに入れてましたから子どもの。公民館で遊んでました、子どもサークルに。子どものサークル、なんかその時はありました。古いですからね朝から。今もサークルあるんじゃないでしょうかね、ひよこなんとかとか名前付いて。サークルで遊んでましたから、そんなもんです。

Y：そんなんで遊んでる、車が、車を増やしたがために子どもの場所が無くなったとかね、そういうことに関係しますね。

Aさん：それはもちろんしますよね。それで危ないことがいやでしてん。反対側やったらよろしいんですけど、家出たこっち側やから、向こうの方からびゅーっと出てきた時には危ないんです。思いっきり加減なく、私は入口ですよ。向こうの方に止まってる車がこうくるから、入口に向かってね。だから車って大事ですけど危ないんです、子どもの出方によってはすごく。反対側は絶対にでないって、こっち側やったらまだこう坂がこう。こっち側やったら危なくないけど、出口の方に向かってですから。玄関の方に出て、だから。

H：たぶんあの一子どもから子ども。みんなの子どもの年代と成長がそろってたからね、ちっちゃい時はその前で遊んどって駐車場なかった、もし大きくなってきたら皆こうね、駐車場なって、うまいことなっとな。

Aさん：そうそうそうそうそう。

H：みんな一律やから。ほんまはバランスとれなあかんねんけど。

Aさん：ほんとやね。

H：今は

Aさん：あっそういうの本当ですね。だからだれも文句は言わんと遊びに使って。あー、そうですね。

H：だから大分経ってからいろんな人が混ざらないけん時になった。

Aさん：今なったらもう高齢者と、若い人と、中間がいないんちゃうかな。中間が。もしかして中間がいないかもしれないその階段ではね。若い人はほんとに若いですから。

Y：混ざる環境になってないし、で、混ざる段取りが全然できてないですもんね。混ざって入ってこないしね。

Aさん：事件見てもそんなように、家族関係の中で事件あったりしてるから、今事件でいったら誰やろって家族から調べていった方が早いですよ。それと同じでなんかこうね、そういう時代でしょ？だからこう人の事は関知しない時代ですから何も感じないのと違いますか。あの生活環境って自分のとこさえよかったら、ね一時代ですかね？自分とこだけ良かったらええんじゃないですかね。

Y：結果的に自分は良くなってないですよ。そういう場合はね。

Aさん：それはそうでしょう。でも人との関わりじゃなくても、一人では生きていけませんよね。助け合って初めて生きていけたり、結局人間亡くなるにしても一人ではあの誰にも迷惑かけへんいって絶対誰かに迷惑かけますやんか。他人さんであろうと何であろうと。せやから、それと同じで、誰にも迷惑かけてないってことは無いと思いますわ、口実していつても。でも皆さんはきっと思ってるんじゃないでしょうか誰にも迷惑かけてないわって。思ってるから生きていつてるんじゃないでしょうか。

H：今思ったんですけど、先ほど赤ちゃんを預かってらしたん託児所ですね。

Aさん：託児所でも無いけど、でも今の方が。でもあたし娘聞いてたらなんかあったらよう預かって、なーうちそう預かってますよ。家系ちゃうかな。あのつわりできつい自分の友達やから、預かって朝からって晩なったら返すって言うてますよ、うちの娘も。

A：へー。

Aさん：だって友達やねんからって。友達が今しんどいから、ほんなら下の子を見てたりとか。だからうちの娘もしてますわ、たった一人やけど。私のとこはこ人数が多いからね、一軒家でそれをしてますわ、娘が。友達関係の中で見てあげる、それはやってるみたいですよ。歯医者、私が歯悪いから歯医者行く間見といてとか、今は若い人の方が多んじゃないでしょうかね。

Y：いや、それはあの逆にそういう関係はずいぶんあると思います。

Aさん：今の人が逆にあるんじゃないかな。私たちの時の方が私は珍しいと思います自分で。というような気がします。各自お母さん育ててますやん、皆働かないでいうか、ある程度パートに行っててとかいうの

も子どもが学校行くような間の時間とかでパートに行ったりとかありますでしょ。そんなにじゃないと思いますねん。今の方が預かりあいつこ平気でしてるんじゃないかなと思って、私の中ではそう思ってます。私の時代は反対に珍しいと思います。みんながみんな自分の子は自分で育ててはりました。ちょっと大きくなったらパート入れてはりますから時間内に自分の子どもが帰ってくる時間までに。私は珍しかったんかなーと、だってそれで働きに行ってはったんじゃないんだから。別に病院行ってくるとかなんか行ってくるとか、用事のために預かるんですから。それがたまたまこっちにおってこっちにおってなるからいつも行ってたのかもしれないけど。それはなぜかって言う幼稚園送り迎えして行って今日預かってってなりますやん。なったら預かるっていう関係ですね昔だったら。今幼稚園の送り迎えも聞いてたらクラスしかないんですよ公立の幼稚園、たったクラス今。役員決めのものもそんな大変やし、クラスって言いますからね。せめて二クラスないんですからね。

A：今じゃあもしなんか子育て世代の人と仲良くなったら預かれますか？

Aさん：怖いわ。

A：それはやっぱり。

Aさん：うん。やっぱり、自分の分やったら、でも弁償ってできませんでしょ人間のことで。なんぼお金を積んでも返せませんでしょ。それはしません、私はもう。やっぱ若いから無知でできたことであって、今無知じゃないやん、こう経験してきて人生。

A：その経験を活かさないか。

Aさん：活かせない、ふっふっふっふ。そんな無責任なこととはできませんわ。若いから無責任で預かったなって自分で今思いますから、私はね。できるできるって単純じゃありません、もう今はものすごい怖い時代ですわ。

Y：それはそうですね。

A：確かに。

Aさん：ふっふっふっふ。自分で思うのは、無知やからできたことやなって思ってますねん。自分の孫も思いますよだから。だって返せますか？同じもの返せたら私はします。けど同じもの返せないから、例え自分の娘であってもそれは思いますわ、怪我させても何しても、自分の責任でしょ。いいわっていう単純ではありません、返せないから。お金を積んだって許してもらえませんでしたしょ婿さんに。

A：もちろんそうですね。

Aさん：ね、そしたら考えますやん。うふふふふ。自分ができる範囲、範囲のことはしません。歳いってきましたしね。

Y：そうですね。体力いるっていいですもんね子どもを相手にするのはね。

Aさん：もう今はできません。けど若い時はやっぱエネルギーと結婚したからできて、お母さんも早かったから無知やったからちゃんと言われた。あっせやなって思いました。無知やったから、ふふふふ、で怖いんですよだから。逆に、何も考えへんからできることであって、考えすぎたらできひん。だから今はそれだけしつ

かり責任もって、結婚生活をしてきて長いから、若いって怖いですよねだから。

Y：そうですね。

Aさん：自分を振り返るとね。今なんぼ慣れたからといってももうできませんわ。うん。

Y：子どもがたくさんいる時代の親はねもうそんな一人一人面倒を見ておれないっていう時代がずっとありましたからね。

Aさん：だから私主人と離れてましたでしょ。その説明とかね、してません。あの終戦後の違いですから。時代が違うのは会話を聞きますやんか。それこそ私が政治が分かればんから、主人の方が良くわかりますやんか、その時にこうわからへんかったら、怒りながらぶつぶつ見ながらとか主人が言うてますやんか。それを聞いてますから。ちょっとは違うんですわ。私の若くて濃淡に見えて主人の会話で全部わかるんですわ。

A：ちょっとずつ勉強。

Aさん：そうそう、時代が違ったら歌手のあれもわかりませんけど、そういうかとはわかりますねん、これはあれやっていうのはわかりますねんちょっとは。だから無知な部分っていうのは怖いなーとは思いますが。預かれませんそんな、よそのお子さん。大変よ今はそんな時代やから。

Y：今は今風だけれど、やっぱりちょっとした良い意味でのおせっかいって言うのかなあの一。

Aさん：あったらいいと思いますね。

Y：できる状態がね、になっとつたらね良いと思いますけどね。なかなかそう素直になっていかない。

Aさん：ならない。だから娘の結婚だってほら昔私らが遅なったらほら、ある程度が来たら私らがこうなんで結婚が早いかって言ったら、皆こう世話好きがいますやんか。あの無駄なようでこんな言ったら怒られるけどいますやんか、そういう人って欲しいですやん。あったらいいと思いますねん。それって自分嫌やなと思うけどいてたらいいでしょ、そういう人とかからいろんなこともらった方がいいでしょ。それがあったほうが私はいいと思います自分できませんけど。あったらいいと思います。だから結婚が遅れたりなんか遅れたり、自分のとこの事やからわかるんやけど、あの、ありますよね。そしたら嫁にも早よいけとかありますやん。

H：まちの世話好きが少なくなったから。

Aさん：そうそう。

H：独身が多くなって。

Aさん：うんうん。と私は思ってます、私らの時すごい言われましたもん、あっちからこっちから。

Y：そうですね。

Aさん：たまたま、あのそういう時期がありますやん声かけられる時期とかありますでしょ、それでばたとありませんでしょ次は、あの、あるうちにいっとけて。

Y：そうそうそう。

Aさん：なんかね言われる時ってね、私もそうなんですけどうわーってあったんですねん。だから失敗かもしれないけど、或いは成功して早く結婚すんのも。娘にはゆっくりしいやって、皆ゆっくりしすぎてますけどね、へへへ。けど、そういうことですわ。やっぱり

そういう人って必要じゃないかな。あ、いろんな意味ですよ。やっぱりこの世話好きがあったらいい。けど大阪はいまだにいます、まだあります、そういう環境が。私が大阪に帰りましたらあります。もう嫌やなって思う人もいます。

A：大阪のどこですか？

Aさん：私はねあの弁天町なんです。

A：あー大正とかそのへんの。

Aさん：そうそうそう。知ってはりますか？あのぼんぼん船とか無くなったんですよ。

A：ぼんぼん船？あんま分かんないです。大正のあの高架下に飲み屋さんとかいっぱいあって。

Aさん：だからね、えーと今ドームできましたやんか、こないだもあの新たにできたほらあのドームの近くの一。

A：ホームセンターとか

Aさん：そうそうそう、そのおっきなさんができましたね。で結局は弁天町で過ごして、あの、立ち退きになりましたから大正区の三軒家ですね。

Y：うん。

Aさん：だから開けてきてますけど、半分は。

Y：うん。

Aさん：だから弁天町の。三枝とかね、私なんか近くでしたよ。

A：へえ。

Aさん：家がね三枝の、三枝の家を通過って中学行ってたんですよ。ほんで私は昔はそろばんとか習いましたから。あ、知らないよね。三人のトリオのね、人らがね、そろばん学校開いてましてん。

A：へえー。

Aさん：なんていうのかな、レッツゴー三匹でしたかね。漫才の。知ってはります？

Y：あー。

A：名前は聞いたことがあります

Aさん：あのひとの一人、そろばんやってはるんです。そういうところでそろばんやってて偶然ですよ、それで行ってますねん。三枝は分かってたんです。で私らの時代行く中学校ゆうたらきよしとか、あんなんです。

A：ふふふ、すごい、いろいろ。

Aさん：すごいでしょ。いろいろ人生の、あの人らが、だから弁天町のときに私が中学校で大正区に引っ越ししましたから、そうですね。だからそういうレッツゴー三匹ゆうたらわからんけど、そんなこと分かってくればってよかったけど、そういう時代です。

H：じゅんと長作でしょ、あと1人誰やったつけ。

Aさん：そうそう。そんなかの一人のね。そろばん学校に行ってたてん。

Y：うんうん。

Aさん：それが大正区にありましてん。三枝なんかはおばあちゃんに育てられた、大きなうちのひとで。だから中学校とかはね、あの人ら、きよしとかとね同じ学校でしたよ。先ですけどね。

Aさん：三社神社いうて神社がある前ですから、弁天さんゆうて。だから弁天ゆうたらこの大正区のこと全部分かります、ふふふ。

Y：人の付き合いや横の付き合いがすごく濃度の濃い街や

からね。

A：確かにそういう人の名前挙げられたら。

Y：僕、昔のふるーい市岡高校の、

Aさん：市岡！

A：市岡なんですか！ははは。

Y：僕はそのお話の近所の高校に行ってた。

Aさん：私ね。市岡なんかねでれません。入れませんでした。

A：市岡なんですか。僕の…

Aさん：市岡…あ、ご存じですか、私市岡中学ですねん。

Y：あ、市岡中学の存在は知ってます。中学は僕は違いますけどね。

Aさん：うわあーすっごい離れてて入れなかったんですよえ。

A：僕の双子の一人が、市岡です。

Y：うんうん。だから街の様子がよく分かります。

Aさん：市岡高校いうたらすごいですよ。私たちは昔の恥ずかしいことは言えませんが、ふっふっふ、専門の高校とか国公立は入れられなかった、みんな私立に流れてくから。市岡高校なんか入れませんよ、入れませんよ。

Y：ふふふふふ。

Aさん：入れなかった、学年なんぼか上がらないと入れなかったんですよ。

A：へえー。

Aさん：あーだからすごいですよ。わたし市岡に一番近いのに入れへん。

Y：近いですね。

Aさん：そら近いですよ中学でしたから。あつ、そしたらさんせん市場、あの一、はんえい市場もご存じですか。はんえい市場が近かったんですよ。中学から。

Y：それは知らないな。僕らの頃は前の市電の向こう側から。

Aさん：市電でしょ知ってますよ。

Y：今は弁天町のこっち側からね。

Aさん：はいはい市電があって。

Y：向こう側がむしろメインやったよね。

Aさん：淀屋橋まで通ってたんですよ。

Y：その先の方までね、ずっとね。

Aさん：通ってましたでしょ。私あの市電とか言うね、レノアにいてましてんわ。会社にね。

Y：あ、そうですか。

Aさん：それでその市電にね明色とかありましたよね、会社がね。あの辺のことをいうてたら、あはは。あの辺大きな会社があったんで、明色の化粧品とかも

Y：アストリンゼンとかね。

A：明色って

Aさん：アストリンゼンっていう化粧水です。

A：へええ。

Aさん：うん。

Y：うんうん。赤玉ポートワインとか。

Aさん：そうですね。大きな会社とか企業とかがね、会社に勤めるのに、市電で行ってたのは珍しいんですよ。途中からそれが無くなって、あの、環状線とか地下鉄とかで、市電でいうのはほんの最後でしたわ。うーん。ほんと市岡はすごいですよ。

Y：ふっふっふ。あの、まあ、すごいというのは、まあ。住まってる同士の人情の厚いところか。

Aさん：そう、

A：確かにあの辺は人情厚い。

Aさん：そうですかあ、そうそうそこで育ったんです。だからここ来たときに、ドアが重いってそういう風な感じなんです。

Y：ふふふ。でも団地入ったときはびかびかのところに入ってたって気しませんでした？

Aさん：しました。

Y：ね、そういう、あの。

Aさん：そういう、普通の家みたいなんやから。すごくこう、ドアが、部屋の中にあの部屋があつてこの部屋があつて、わあーって。新婚のみたいな、自分の描いたとおりの、描いた絵図でしてん。

Y：まあ、ある種別世界に入ったという感じが。

Aさん：ふふふふ。

Y：団地の、公団の中に入ったらそういう時代や。

Aさん：台所もね。

Y：そうそう。

Aさん：うん。まずは台所。

Y：ステンレスのね、ところなんかね。水洗便所やし。

Aさん：そう、そう。そうです。だってわたしのちっさいときとか、プロパンとかたくさんありましたからね。大阪、大阪ゆうたかって、まだそういうところたくさんありましたから。火事とかあつて。線が届いてないだけだね。

H：やっぱり団地って、いろんなところからいろんな人が集まって、それぞれ育ったところでなんか、こころの下地みたいなんがね。やっぱ出来てから来る。

Aさん：私、結構なんかみんながおもしろいとかあほなことばかりいうから。

Y：そやから団地に来て、新しいお住まいなさってもね、昔の何かがにじみ出てきてね。

Aさん：そうそう。

Y：そやから託児所なんかになるんですよ。

Aさん：あー。

H：世話好きのになつて。

Aさん：いまは世話好きなんかしてませんよ、今は。

Y：いやいやもう今はそんな役割は終わったから。

Aさん：あつ来たときに。

H：うんうん。

Y：生活の仕方がね、そういうまちの生活の仕方を背負ってここにきてはるわけやから。

Aさん：ふふふふふ。そうそうそう。

H：当たり前やったらね。

Aさん：あー。

A：そのときは当たり前やと。

Y：そういう素敵な話やないですか。

Aさん：…何にも考えてない。

H：ふふふ。

Y：何にも考えてないいうことは、当たり前やということや。

Aさん：そうそう。いま言われた、うん。

Y：何も特別の生活はしてないとずっと仰ってるけれど。そのままずっとつながってるわけでもんね。

Aさん：あー、
A：おもしろいですよね。
Aさん：おもしろい…言われれば、気づかされてる。私はただ無知やったから出来たことやと思ってたんですが、こう…ね。
Y：いや、それはもう無知とちがいます、これは。
Aさん：はあ。そういう環境で来たから。
Y：そうです。
H：その、大御殿の近所づきあいがあったくない、全部やってももらえるところに住んでたら、そら。
Aさん：はははは。
Y：預けてばっかりやな。
A：預けるのに何の気もなかった。
Aさん：でもわたしこんなんでも預けるのんってものすっごく苦手でして、自分の子は。
Y：うん。
Aさん：それはなんか、もう性格やねやっぱり。すごい苦手でしたね。そういう意味では。…そうやね、うん、おもしろいわあ。
A：ベランダの前って、なんか自分の庭みたいな雰囲気はありますか。
Aさん：私はないけど、主人が今そないしてるからやけど。
Y：ふふふ。
Aさん：プランターとか、何を言われるにしてもプランターにして。
Y：瓢箪がぶら下がってても。
A：すぐ取れるように、何か言われたら。
Aさん：そう、そう、そう。やから押しつけてます主人を、ふふふふ。何か言われたら、直植えしてたらやっぱり何か良くないから、プランターとかで、主人にとっては何も考えてませんからそんなぐらいいえって、そんなええって思って過ごしてる。
A：それは、今ですか。
Aさん：うん。べつにほら、別に何か植えたりできませんねん。そんなジャガイモ植えたって、私が言うたらソラマメかなあって言うのぐらいしかできませんし。
Y：ふふふ。
Aさん：そうそうそう。あの、苗だけやったら植えるでしょ、そしたらおとうさんタマネギちやうやんラッキョウやん一つて言うんです、おとうさん楽しんでるから。人さんから見たらすごいことしてるってほんとにね、八百屋をしてるわけでもないから。でもね。
A：昔は、昔はどう…
Aさん：昔は花植えてましたよ。
A：目の前で。
Aさん：そやけどそれを舗装が来る、来たらなんやしたら人から見たら草に見えるよって全部潰されてもうて。おとうさん頭にきたんですわ。だからいっぺんうちの家に来てみてください、きれーいにサルスベリの木だけ植えてますわ。
A：へえーあれは自分で。
Aさん：自分で。サルスベリの木だけ。
A：家の前に？
Aさん：ううん。
A：ベランダに？
Aさん：うんうん北側に。

A：ああ階段の側にね。
Aさん：階段の方にサルスベリをね。剪定してるからほんとに不自由なく、が一つとはしてないんですけど。
A：へえ今度見ときます。
Aさん：サルスベリは落ちるから、ゆうて。
Y：今咲いてるよ。
Aさん：うん。そうそうほんで落ちてる。だからサルスベリぐらいついとか、それもそやけど、やっぱり何かを言われてとれば。
Y：うんうん。
Aさん：で、太陽当たれへんからなんでベランダ上げなあかんいうたら、うちのすごい日陰で。あんだけ木を切っても太陽が当たらないから、上には無理なんですわ。んでこう、下にしてるかな。言われればとれるようにはしております。
Y：それは木の陰になるから太陽があたらない？
Aさん：そうです。ほんで言いに行ったら来てくれるんです。ある意味置いとかなあかんところもあるみたいですわ。我が儘ばっかいうたって、上の人が目隠しですって言われたら許可とってって、ふふふ。
Y：ふふふ。
Aさん：ややこしいんですよ、許可取ってまではいいかなあとか言って。
H：それはあの、冬は葉っぱ落ちない木ですか。
Aさん：あ、あの、落ちる葉っぱです。考えてるんですね、やっぱそういうの。うーんそういうのは我が儘言えません。まだ切ってくれてる方ですからね、そうですね。大阪で言うたらすごいですわ、びっくりしましたははは。
Y：お近くですね。
Aさん：そうですね。
A：最近めっちゃちゃんと、ベランダの前の草木刈ってますよね。
Aさん：刈ってくれます。うんびっくりしました。
A：昨日もやってくれました、昨日？一昨日くらい。
Aさん：それより前よりも回数がすっごく増えました。
A：最近ですか。
Aさん：ここ何年か。
A：あー。
Aさん：うん。すっごく増えました、回数が増えました。
A：昔はだから、放ったらかされてた。
Aさん：そうですね、いや、年に2回とか3回…今は数えてないけど何か多いですね。
A：多いですね。月一くらいでやってるんちゃうかって。
Aさん：うんうん先月もね、なんか今までは違いましたけどね。
H：月一でも刈るもんはあるんですか。
Aさん：ありますよ、すぐ伸びる。
A：ありますよ、むっちゃ伸びます。
H：ふうん。
Aさん：草ですけど。
Y：雑草な。
Aさん：雑草ですね、早いですわあっという間に。今でも昨日刈って、もううちっちゃくなりますからね。
H：へえ。
Aさん：でもこんなんでもムカデも入りますねん、家に。

Y: あ、そうですか。
 Aさん: ムカデのこんな。こんな大袈裟やないけど。
 Y: あ、そんなにかいのですか。
 Aさん: うん、こんな大きい。
 Y: へええ。
 Aさん: ムカデで仲良いていいですから、2匹出ますよね。
 Y: 2匹で出ますね。あれかならず2匹居てますやろ。
 Aさん: 必ず。1匹見たら必死になって覚えとかなないと、必ず2匹居ますよ。
 Y: もう一匹ね。
 Aさん: お近く同士でしたら、大阪やてそれで来たんですけど。
 Y: ふふふ。
 Aさん: ただ力が無かったからやと思いますよ。ふふふ。
 もし住んでる力があつたら出てたかも知れない。
 Y: いやいや合ってたんだと思う、きっとね。
 Aさん: あ、ありがとうございます。そやて言われると気が楽やわ、ふふふ。
 A: そんな感じでいいですか。次、またこれ数珠つなぎに紹介してもらえますか。
 Aさん: 誰か…。いてないいうたら、ふふふ。
 Y: ふふふ。
 Aさん: わたし、これなんて説明したらええの。あのね、もし私が知ってる人やつたらね。
 A: 僕が説明しますんで。
 Aさん: そうやなくて、なんか役員したり、いっぱい役員したりしてはりますねん。
 A: あー。
 Aさん: いろんなんで、その人は役所とか長いかな、ふふふ。
 A: 役員?
 Aさん: 何もかつこいい人かわからんけど、結構有名な人ですよ。もっとしっかりしてる人やから、こんなあほな話はしはれへんかもわかれへんわ。あ、あの地域が違いますねん、ここには住んでましたけど何十年も前に、よそのマンションで、私の知り合いはよそ行ってますみんな。
 Y: ふふふ。
 Aさん: この団地の中でいうたら探せません。ふふふ。
 A: あはは。わかりました。
 Aさん: この団地の人の方が良いかな、やっぱり。
 Y: うん、まあできたらね。そんなね、ご主人に話し伺うのもね。
 A: そう。
 Aさん: あーうちねえ。
 Y: あの、彼は37年のうちですね10年分くらいしかここに住んでない。あとは週に一回しか。
 A: ははは。
 Aさん: そう、それは35くらいまでですけど。あの言っときますけどうちの主人、多分…その、花の話になったらぐっと上になって誰かと喋りだすけど、うちでは黙っておりますからね。家では無口なんですわ、寡黙というか。
 Y: いえいえ。
 Aさん: ほんまに、しゃべらないと思いますわ。
 Y: いえいえ、でもじーっとお話ししてたら、ぽつりぽつ

りだんだん出てくるかもしれない。
 H: まだ男の人にチャレンジしてないね。
 A: そうですね。
 Y: うんうん。
 Aさん: でもうちのは。
 Y: でも裏話してね、話が豊かになる。
 H: うんうん。
 Y: でも男性もやっぱりね、話はあるよね。
 Aさん: 知らないと思いますよ。
 A: ふふふ。
 H: ふふふ。
 Aさん: 私の場合全然知らないもの。
 Y: うんうん、だからさっきの話、37年いらっしやっただしよ、10年分くらいしかご主人はここを知らんわけですわ。でもそういう生活をしている目から見たこっつていうね、話をね。
 Aさん: それほどやったら、他のご主人選んでください。
 A: あははは。
 Aさん: うち絶対無理です。
 Y: ああ、ほなら瓢箪の話とか。
 Aさん: ひょうたん。ふふふ。
 Y: ふふふ。
 Aさん: できてませんねん、それが。ちょっとでも形になるかないうて。そうそういう話なつたらするでしょうけど。いやー、どうでしょうねえ、うちの主人には。それぐらいに無口ですし。また夫婦とも学の無いものですから無理だと思います。
 Y: いやいやそんな。
 Aさん: 田舎の話をしなさいというならうちは出来るかも分かりません。
 Y: うーん。
 Aさん: けど都会の話は出来ません。
 Y: うん。
 Aさん: 田舎の話やったらできますわ。山の人ですからね。
 Y: あー徳島の山の方。
 Aさん: そう、徳島の山の人です。深い山にいる。
 Y: なるほど。
 Aさん: はい。
 Y: いや、山の人、海の人、いろいろあるからね。
 A: ふふ。山の人がいますか。
 H: 徳島の山の人って。
 Aさん: 徳島ですよ、すごくて、美郷なんです。美郷村で分かります?
 Y: うんうん。
 Aさん: 山の深い村ですね。
 H: 僕の母親が、高知の山奥で、だいたい近いかも知れないですね。
 Aさん: ほんまに山の中で何十年も育った人ですから、全く。私と話がぶつかるのが。あはははは。
 Y: もう、むちゃくちゃ町の人やからね。ふふふふふ。
 A: ああ、そうかあ。
 H: そうそう。
 Aさん: あはははは。
 H: 思い切り昔の。
 Aさん: そう。キャベツに虫がおつたらあかん人やねん、わたし。

A：あー。
Aさん：だから瓢箪つくるってわかるでしょ、そのへん。
A：呼びたくなってきました。
Aさん：いやー無理ですわ。多分来ないと思いますわ、言っても。
A：そうですか。
Aさん：でも喋らないんですもん、家でそんなに。黙っておいたらそら一日黙ってますよ。
A：へえー。
Aさん：うん珍しいでしょ。親が、私の親がよく言うのは、そんなしょうもない話しかないですよ、うちの主人には。
Y：男でそんなもんなんです。
Aさん：あの、お正月の挨拶とかってちゃんと、あけましておめでとうございますって言葉ぐらいは、言えるように頭下げて言葉ぐらいは、もによもによって、嫌やねん言うのが。あははは。
Y：ふふふ。
Aさん：それをね言うっていうのが、分かってもらえないから。そういうことでね、今は言えますよちゃんと、そやけど帰ってきたら言えるようになってるのが、だから仕事現場でもみんな、あ、おとなしいね優しいねだけで来ました。あははは。
Y：ふふふ。
Aさん：それはもう私だけこんだけ、やかましい人。
A：それ、言ってみてください。
Aさん：いやあー無理ですわー。
A：あはははは。
Aさん：絶対、嫌。無理ですわ。
A：お孫さんとは、いっぱい喋ってるんですか。
Aさん：うん、それも、だから気が利かへんおじいちゃんですから。
A：あはははは。
Y：今日お帰りになったらね、今日こんなことあってんっていうことを、ちょっと話していただいたらね。
Aさん：あ、そういうことならしますよ、しゃべりですから。
Y：それやったらわしも話してみよかとか。
Aさん：あーならないならない。
Y：ははははは。
Aさん：そんな人やったらどんなに楽か。あ、だから反対にすごい楽なんです。何も言わなくて良いんです。
Y：そうそうそうそう。
Aさん：そういう人は怒れへんし黙ってるし。そう黙ってるの。仕事に行っても、ばーって喋ってなくて無口で、それこそ山の人ですから。きっと。
Y：うん。
Aさん：喋ることもなく山ですから…。無理ですわ。Kさんのご主人とか社会に出て。その、あれ、会社の中のあれでしょ。うちはそうじゃなくて一人で。無口でおれるんです。
Y：うん、そうかそうか。一人でずっとお仕事をやられた時間が長いからね。そやから山の人が街に住んだ話を聞いてみたいな。
A：あはは。確かに聞いてみたくなった。
Aさん：だから私は横向いておれるんですよ。長いことの

距離でしたら私が若かったら、うしろ乗せていくんですから。だから私が行けへんかったら、子供を乗せて行くんです。
A：へえ。仕事ですか。
H：確かに聞いてみたくなったね。
Aさん：なんで山の話？
Y：きっと思いがあると思うねん。言わないだけで。
Aさん：えっ、無いと思いますわ私。ぜったい。
Y：ははは、そんな。
Aさん：…えっ、何の思いがあるんですか？
Y：それは、しあわせやったとかね。
Aさん：あー絶対ないわあ。…しあわせ、
A：なんか、逆に。
Aさん：わたし、それ言います、自分はしあわせやったと。円満やと勘違いしてはいけませんと教えてます。ふふふふ。
A：洗脳されてる。
Aさん：いや、そういう勘違いを、自分はそう思ってると思いますわ。
Y：いやいや、もし機会があったらAくん、おまえ取材の了承を取って来いよ。
Aさん：いやいや。うちの主人は無理です。
Y：いや、分かってますけど。いや、ひよっとしたら。
Aさん：いや、ひよっとも…あ、みなさんがご想像する。
H：そんな強制しなくても。
Aさん：いや、ご想像されるほどの主人ではありません。
Y：なにを仰いますのや。ははは。
Aさん：ふふふふふ。いやそんなしゃべれませんか。こんなもんでじっと黙って、なんもないですよ。きつかけを出してもしゃべりませんで、うちのは。
Y：うん。
Aさん：きつかけをかけてもしゃべりません。
A：ピンポンって行きます、僕。
Aさん：でませんし、もともとね、うん。
A：あはは。
Y：お酒は飲みはるんですか。
Aさん：今ちょっと、あの、あれしてて。
Y：ああ病気でね。もともとは？
Aさん：お酒だけなら飲みますね。たばこもやけど。
Y：山の人やから。山の人は酒飲まなあかんから。
Aさん：ほんとは山の人は吸わないんですよ。
Y：たばこはね。
Aさん：ないでしょ。そやからうちはたばことお酒しますもん。たばこ作ってた割にはたばこ吸う。
Y：うん。
Aさん：こないだ初めて知りましたが、あの、そういう人はたばこ吸わないでしょ。田舎の人ってたばこ吸いません。
Y：うん、うん。
Aさん：うん、無理ですようちの主人は。見てみたいなって感じなんでしょう、こんなしゃべりの奥さんと、どんなおじさんがって。あはははは。
Y：ふふふ、そう、そうでしょう、ひよっとしたら僕だって、こんな無口になってたかもわからん。とかいうて。
A：あはは。
Aさん：はははは。

Y：いやいや、ほんとに今日はありがとうございました。

Aさん：あはは、ちょっと見てみたい。

A：良い感じでした。

Aさん：え？そうですか、いえいえ何の役にも。

以上